

# 名古屋大学博物館野外観察園展示「野外観察園の四季」を開催して

○吉野奈津子<sup>A)</sup>、野崎ますみ<sup>B)</sup>、飯野孝浩<sup>C)</sup>、西田佐知子<sup>B)</sup>

<sup>A)</sup> 教育研究技術支援室 生物・生体技術系

<sup>B)</sup> 名古屋大学博物館

<sup>C)</sup> 名古屋大学 NUMAP・理学研究科太陽地球環境研究所

## 概要

名古屋大学博物館野外観察園では、展示室において「野外観察園の四季」の展示を行った。(期間 2011 年 12 月 5 日～2012 年 1 月 31 日、来園者 247 人) 今までにポスターで紹介してきた「今月の野外観察園」を展示の中心としている。紹介した植物が観察園内のどこにあるかを地図で示し、配布用地図も作成して地図を見ながら園内を散策できるようにした。展示の内容と入場者数、アンケートの結果について報告する。

## 1 名古屋大学博物館野外観察園と展示について

名古屋大学博物館野外観察園(以下観察園とする)は、博物館が管理・運営する、生きた標本を見学できる施設である。一般の方も自由に散策でき、観察会やイベントも行っている。実験や実習のための植物材料を作成する実験圃場もあり、授業等で利用されている。隣接するセミナーハウスの 2 階が展示室である。平成 23 年度は年間を通じて 6 つの展示を企画した。「野外観察園の四季」はその一つである。

## 2 展示の準備

### 2.1 展示内容と展示名の検討

2005 年度から続けている「今月の野外観察園」(図 1)は、毎月 2 種類ずつ生物を紹介しているポスターである。これをメインとし、一年分まとめて展示することで、観察園には四季に応じてどのような生物がいるのかが認識しやすく、再度来園するときの目安になりやすいのではないかと考えた。展示名は「野外観察園の四季」とした。

そして「園内散策マップ」のコーナーを作り、ポスターで紹介した植物が観察園内のどこにあるかが分かるように、ポスターで紹介している植物と、その植物が実際に観察できる場所とを、地図上に番号で対応させた。「園内散策マップ」は飯野が担当した。

そのほか、花粉の形を科ごとにまとめた電子顕微鏡写真、故高木典雄先生の樹木標本を展示することにした。電子顕微鏡は野崎が、樹木標本については西田が担当した。

### 2.2 ポスターの作成と広報

今回はアカガシワの葉をスキャンしシンボルとして使用した。背景には野外観察園の全景を使用し、アカガシワの葉は背景と類似色でやや明るい色に加工した。全体的に落ち着いた感じであるので、題名は明るく鮮やかな黄色を使用した。視線は、ポスターの中で最も鮮やかな題名から、右側に大きく配置されたアカガシワの葉、アカガシワの葉の流れに沿って下の詳細情報へと移動するようにしてある(図 2)。

ポスターは完成次第掲示すると共に、博物館ホームページに掲載し、各部局へチラシの配布、地下鉄駅構

内の案内板、新聞社等のマスコミにも開催案内を載せてもらうよう博物館が手配を依頼した。



図1. 今月の野外観察園

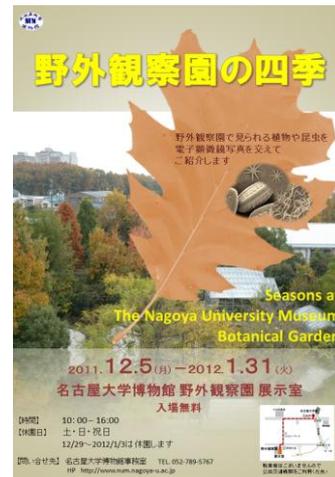


図2. 野外観察園の四季ポスター

### 2.3 展示物の作成

展示物は大型プリンターで印刷した後、余白を切り落とし、ノリつきパネルも同じ大きさに切断した後、張り付けてパネルにする。大きなパネルを作成するときには空気が入りやすいので注意する。バンティアンパネルに貼るものにはパネルの裏に面ファスナーを貼り付ける。

### 2.4 展示物の配置

展示室の間取りと展示するものの量から、バンティアンパネルをどこにどのように配置するかを検討する。展示するポスターは春・夏・秋・冬の4コーナーを作り、順に四季を追えるように考えた(図3)。

来園者の視線の動きを考えると、一番最初に目に入るのが入り口正面パネルである。ここを冬コーナーとし、現在の季節と合致するようにした(図4)。その手前に今回の展示の紹介のパネル「ごあいさつ」を設置した。冬コーナーの背面に春コーナー、奥に入って中央パネルに夏コーナー、一番北側の秋コーナーを見た後、最後に花粉の電子顕微鏡写真のまとめのパネルを掲示した。花粉の電子顕微鏡写真の隣には、その他観察園で見られる植物を「これなあに」として展示した(図5)。植物の写真だけが見えるようになっており、写真をめくると植物名と説明文が分かるようになっている。園内散策マップは自由に持ち帰ることのできるものも用意し、展示を見た後、マップを持って観察園内で実際に植物を見ることができるようにもした(図6)。マップは大(A4)、小(B5)の2サイズを用意した。高木樹木標本は、「木にふれてみよう」として窓際のテーブルに置いた。中央テーブルは、チラシ、アンケートコーナーとなっていて、観察園の植物を掲載した冊子も閲覧することができる(図7)。

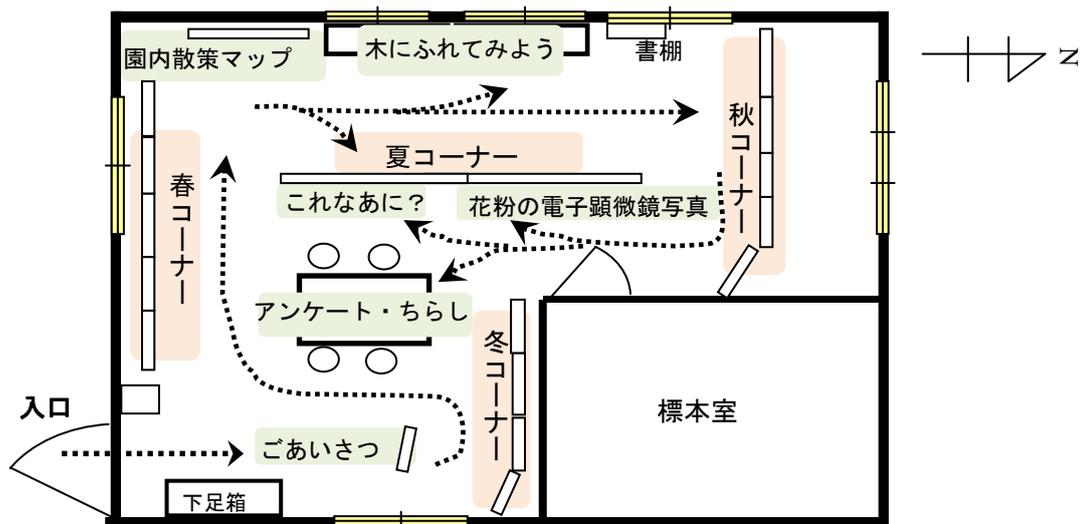


図3. 展示の配置と来園者の動き



図4. 展示の様子（冬コーナー）



図5. 展示の様子（これなあに？）



図6. 展示の様子（園内散策マップ）



図7. 展示の様子（チラシ・アンケートコーナー）

## 2.5 展示開始後の管理

展示の開催中は、展示室の開閉、照明、エアコンの管理、展示物のずれ、はがれなどが起きていないかを毎日チェックする。これは業務支援室に依頼して開館時に行ってもらった。1週間に一度来園者数、園内散策マップのチェックを行った。園内散策マップやチラシなどは不足があれば適宜補充した。

### 3 展示を終えて

#### 3.1 来園者数とマップの数の変化

37日間の会期中、展示室には247人の来園があった。最初の1週間は56人と多くの来園があり、その後はゆるやかになったが1月第2週からは再び入場者が増えはじめた。これは、アンケートには反映されていないが、正月明けから近隣に配布された情報誌の載せた広告の影響かもしれない。センター入試の1月14日(土)は臨時開園してみたところ、17人の来園があった。開園すれば利用されるということである。1月21日にも中日新聞に開催案内の掲載を行っている。1月31日は最終日であることと、博物館で開催される講演会に併せての来園が多かった。

園内散策マップは大(A4)、小(B5)共に35枚ずつ設置し、大は28枚、小は14枚の利用があった。これは来園者数と同じような分布を示した。持ち歩きには不便かと思われたがA4サイズの方が高く利用された。

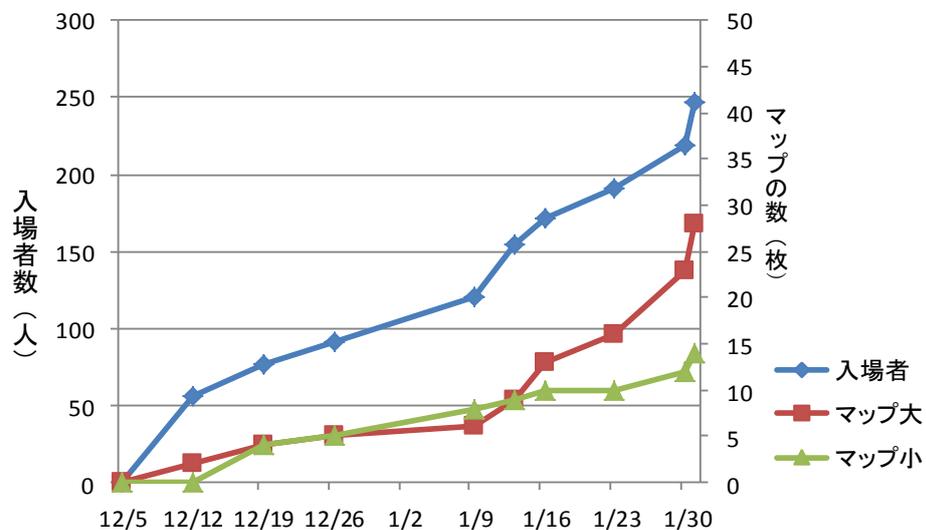


図8 入場者数と園内散策マップ利用枚数の推移

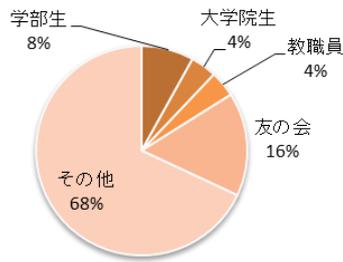
#### 3.2 アンケートの結果

アンケートの回答数は24で、回答率は約1割である。

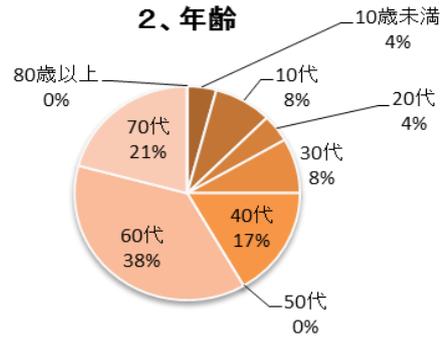
アンケート結果では、来園者の84%が学外の方で、学内の来園者は16%と少ないことが分かった。年齢層は60代以上の方が60%以上を占め、若年層の利用は低かった。展示を知った手段については口コミが33%と最も高く、通りがかりの利用が新聞やインターネットよりも高かった。来園回数は4回以上のリピーターが38%と最も高く、次いで初めての人、3回目、2回目、と続いた。展示の内容は80%が面白かったとの評価だが、少しつまらなかったという意見もあった。展示物の量はやや足りない、が17%あった。展示室への入り口はやや分かりにくい、が約60%、少し探した人や分からなくて困った人が合わせて25%もあり、改善の必要性が感じられた。

一言コーナーには春になったらまた来たい、電子顕微鏡写真が面白かったとの回答が多く寄せられた。

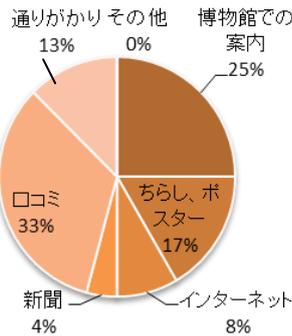
### 1、あなたの所属を教えてください



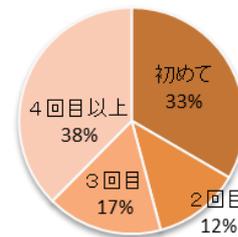
### 2、年齢



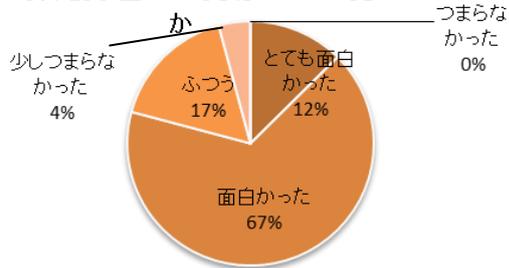
### 3、「野外観察園の四季」をどこで知りましたか



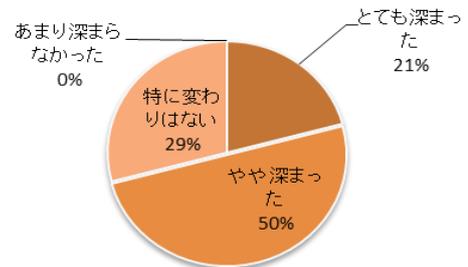
### 4、ご来園は何回目ですか



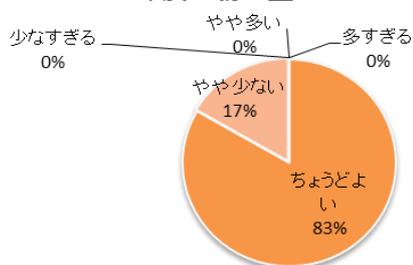
### 5、「野外観察園の四季」はいかがでしたか



### 6、生き物についての興味は深まりましたか



### 7、展示物の量はいかがでしたか



### 8、展示室の入り口は分かりやすかったですか

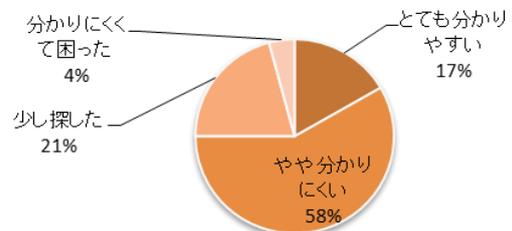


図9. アンケートの結果

## 4 これからの展示活動に向けて

今回のアンケートだけでは判断できないが、現在の観察園の来園者はリピーターと口コミによって支えられていると考えられ、新規来園者を増やすためには、広報の仕方を検討する必要があると思われる。学内の利用者を増やすことができる広報を検討したい。また、入り口の案内についても設置場所の検討が必要である。視線の動きは藤棚を通過後、右手の案内板に行き、次いで観察園の入り口である門に向かうと思われるので、観察園の門に展示室入口の看板を新しく設置した。また窓に取り付けてある展示室への看板を視線の届きやすい通路側の壁面へ移動させることを検討している（図 10）。すでに次の展示が始まっており、アンケートも継続して行っているため経過をみて改善していきたい。展示の内容については電子顕微鏡写真が好評であったことから、大学ならではの内容を取り入れていくことが見ごたえのある展示につながるのではないかとと思われる。

## 5 謝辞

本展示のポスター作製におきましては、情報通信技術系・共通基盤技術支援室の池田将典氏に画像処理について多大なるご協力をいただきました。感謝いたします。

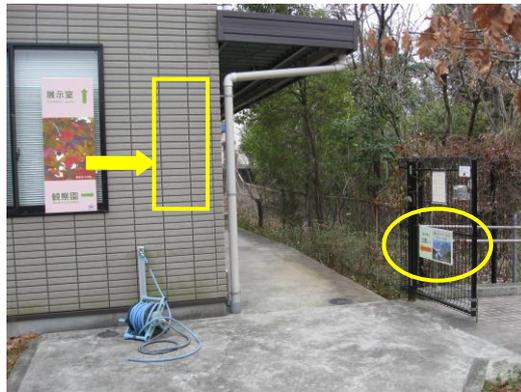


図 10. 新しく加えた案内板と設置場所の検討

## 参考文献

- [1] 柘植ヒロボン, “クリエイターのための3行レシペレイアウトデザイン”, 翔泳社, 2009年
- [2] 木下周一, “ミュージアムをデザインする”, ぎょうせい, 2009年
- [3] Thermal Soft, “間取りくん”, <http://www.e-thermal.jp/>